京都市市民参加推進フォーラム
第２回市民参加啓発冊子(仮称)部会　会議録

日　時：平成１９年７月１１日（水）　午後７時～午後８時５５分
場　所：京都市呉竹文化センター　第２会議室
出席者：市民参加啓発冊子(仮称)部会員　７名（大木委員は欠席）
傍聴者：０名

＜会議次第＞
１　開会
２　座長あいさつ
＜乾部会長＞
基本的には冊子よりもアンケートの中身について時間の許す限り議論していこうということで進めていこうと思う。アンケートの内容については，事前にお配りしていると思うが，直前になってしまったので，経過も含めて事務局から説明してもらいたい。

３　議題
（１）「市民参加啓発冊子（仮称)」の内容について
＜乾部会長＞
本日のタイムスケジュールだが，まず啓発冊子の骨子を確認したうえで，後半に前回の勉強会の内容を事務局から報告してもらったうえで，アンケートの議論に移りたいと思う。

［説明要旨］
資料３「「市民参加啓発冊子（仮称)」の骨組み」に基づき，事務局から説明した。
［意見交換］
＜乾部会長＞
先にスケジュールについて確認しておくが，大雑把には本日議論したことで細かい項目などは本日の話を受けてきっちり詰めていって，２０日の段階で項目も示していくことになる。だいたいそれくらいのスケジュールでないと難しい。そこでもう一度議論してもらう時間は一定取ることはできる。もちろん２０日は他の議題もあるだろうから，また意見をもらうということだが，本日の議論を受けて２０日の段階でフォーラム全体に提案する，一方で調査の進め方だとか，対象，実は対象ごとに，例えば自治連合会という名まででは，受け取った側が何のことかわからないとか，そんなこともある。その点については地域づくりの方で整理整頓して２０日段階で，こういう段取りの中でこのように進めますといったものを提案がなされることになる。だから中身を本日の部会でつめ，20 日の段階で，内容と進め方，この時期にこういうことを

して，こういう対象にしていきますというデータがもらえる，そこでその点の議論をすることになる。

そのために本日行うことは三段階で考えていただきたいのだが，まず大きな公正として，今回のアンケートはこういう構成でいいのかどうかというチェックがまず一点目としてある。それからそれぞれの項目ごとに聞くことはこういう中身，こういう内容でいいのかな，それで最後に聞き方になる。聞き方については，ここではそこまでは言っていない。だからこんな聞き方でいいのだろうかという意見もあろうかと思う。そういう意味では，「こういう点を注意した方がいいよ」といった聞き方とか，そういう注意も出し合って，それくらいの話を受け止めて，また事務局の方で最終整理をしてもらって，調査票の形にして出していくというやり方でやった方がいいと思う。

まずは大きな構成という点でいうならば，今度のアンケートというものは，学区の基礎体力，要するに私たちが期待できるような学区自治を担う力がどの程度あるのかという基礎体力的な話をきっちり聞こうと。それからやる気とやっていることを聞こうと。それから悩みを聞いておこうと。その辺りが大きなねらい目だと理解している。だからそういう部分がもう少し他にもあるのかという部分を確認してもらいたいというのは最初の点だ。最初の基礎データといった辺りが基礎体力に関わってくる設問だ。だから自治連合会長そのものについて，こういうことに聞きます。もう少しこの辺を押さえておかなければならないといったことがあれば，ここで出していただきたい。そして，自治連合会はどのような状況かというのを聞くのが次の塊だ。これは中身は「こういう項目も押さえておかなければならないよ」という話もあるだろうし，この辺になると，どういう聞き方するの？ってものあると思う。そして，三段目がどんなことをしてますか？という項目で，後世でいれば。あなたの地域の状況を知っていますかということと，どんなことをしてますかと言う辺りが後半で聞いている。そしてその次に「どんなことしたいですか」というやる気のようなこととか，今後の展望のような話を聞いている。今の調査票はそんな形だ。だからもう少しこんなものを入れたらどうかといった意見を出してもらえればと思う。ただ，二つあって，地域の状況の中の加入世帯数は市ではわからない。でも加入世帯数がわかれば全体人口は市で把握できているので，それから地域の特色なのだが，これは自治連合会長がどのように感じているかを書いてもらうことが大事で，現実には事業初秋だとかそういう客観的なデータは市で揃うと思うが，どちらかと言うと，客観的なことは市の方でつかまえられるということくらいが，まず本日の説明だが，そういったことを頭に置きながら，どんなことを聞いたらいいと思うかといった辺りで，ここから先はフリートークで進めていきたいのだが。

＜西嶋

それでは基礎データから順番に見ていこうか。この職業の有無だが，例えば家賃収入だけの方，この場合には３になるのか。

＜乾

むしろそれは設問で何を聞いたらいいのかだ。ここで聞きたかったのは，動ける人

か動けない人かということでいうことだ。
＜西嶋
　家賃収入の人は結構多いと思う。
＜乾
　その点で言うと，家賃収入の人は「動ける」ということになる。
＜西嶋
　職業としてはもっていないけども，十分収入としては，ボランティアができるだけの収入があるかなという方，それを「職業なし」というべきなのか。
＜事務局
　時間をメインに考えさせてもらえればいいと思うので，・・・・
＜乾
　だから収入がらみのデータが必要なのかどうかということだ。今回の場合に。
　いま事務局からもあったように，ここで聞きたかったのは，例えば，サラリーマン自治連合会長，若しくは商売人自治連合会長，他にやることにない自治連合会長という，その辺りの区分けを聞きたかったわけだ。この設問では。ただ家賃収入の方は「自営」というジャンルに入るのではないか。
＜西嶋
　自営という項目があればそこに含まれるだろう。
＜乾
　まずは勤めているか自営か，という話を聞いておくと自営にみんな入ってしまう。
＜西嶋
　収入と言う表現はいらないのではないか。
＜乾
　だからこの設問は二つに分解されて，まず勤めているのか，自営か，ないのかというのが一つの塊で，それでどれくらいの時間をあなたはそっちに使っていますか，という二つに分解すれば。自営の人でも四六時中店で働いている人もいるかもしれない。ただ自営で四六時中働いているのは出やすいというのは想像がつきやすい。だからそういう形で聞けばいいと思う。
＜西嶋
　次に兼職状況だが，これは「地域での」ということで良いのか。
＜乾
　地域の役職の兼職状況だ。そこに限定する。そして「在職年数」は会長での在職年数だ。これくらいでいいと思うが。細かくやり始めて役員を始めて何年とか言いはじめたら・・・。
＜西嶋
　学区によって違うのかどうかはわからないが，連合会組織というものは，ひとつのの団体長を持っているか，町内会長をしているか，どちらかの何か，まず母体になる出自がある。なかったら連合会長にはなれない。というのが普通の地域での。連合会

長だけ持っているという人はたぶん・・・どういう形で持たれたのか。あるとすれば。だから連合会長は連合会長だが，では何の団体長なのか，町内会長であるのか，ということもあってもいいかもしれない。例えばそこに市政協力委員長というのが出てくる場合もあるだろうし，そうではない，案外楽な団体長を持っている場合もあるだろうし。

＜事務局

それは兼職状況のところで，何々長かということを聞けばわかるのではないか。

＜乾

町内会長から選出された会長もあり得るということだ。自治連合会が町内会連合の場合は，町内会長以外では連合会長になれない。

＜安本

いきなり自治連合会長になるということはまずないと思う。その前にその前に何かをやっていたはずだ。それを聞ければ面白いと思うが。

＜西嶋

それは兼職ではなく，前任について聞くということだな。

＜乾

履歴のようなものまで聞くということになるが，○を付ける質問形式で聞き出すのはしんどいと思う。

＜上村

例えば過去５年の在職状況を聞いてみてはどうか。

＜乾

過去５年だと，あまり変わってないと思う。

＜安本

例えば前年度だけでも。一つだけではないと思う。おそらく集中するような形になっていると思う。

＜乾

それは兼職状況を聞くことで拾えると思う。

＜安本

だから前年度だ。

＜乾

前年度とはそんなに激変していない。自治連合会はなり立ての人でない限り，そんなに激変していない。

＜安本

自治連会長の前に何をしていたのかを聞ければ面白いと思った。

＜乾

自治連会長の前の職を答えさせるとなると，またざらりと選択肢を並べることになってしまう。

＜安本
　では自由記述にすればいいのではないか。そうすると町内会長も入ってくるだろうし。
＜乾
　まあ自由記述ならばいけるかもしれないが，ただ自由記述の場合，それ以前の職について書くとしても，複数持っていた場合は「何を書いたらいいのか」という話になり兼ねない。「主たるもの」と断っておけばいいのかな。２度選ばせるのはしんどいから，書くなら上の設問に番号をつけると思うが，次の設問には「自治連合会長になる直前にどのような職についていましたか？上の記号からお答えください」という書き方にするかだ。
＜事務局
　特に今現在兼職しているという状況　　と現在と過去とを分けて聞くほうがいいのか，やってきた役職も含めて，問を一本で，時間を限らず過去まで遡って・・・。
＜西嶋
　今まで経験した役職だな。
＜安本
　自治連合会長は本当に大変な役職だ。それになるのに過去に何をやっていて，それに来たかということを，私は個人的に知りたかっただけだ。
＜乾
　このデータをどのように使うかだ。ひとつはその地域が何が強いかという話があると思う。各団が入っていればの話だが。そんなところまでは拾い出すことはしんどいな。
＜事務局
　このアンケートの狙いとして，「会長が多忙だ」ということを裏付けるデータとして兼職状況を聞くのであれば，過去よりも現在の職を聞いた方がいいと思う。また，過去の経験を聞くとなると，「どれだけの経験を踏まなければ会長になれないのか」ということを浮き彫りにすることになるのだが，過去の経験を浮き彫りにしたとしても，冊子に反映させることは難しいと思う。
＜乾
　現在何の職をしているのかという話は絶対取らなければならないし，とっておきたい。ただ過去の話は興味はあるのだが，扱うのは難しい。冊子に使わないデータであっても，取っておいて役に立つものなら取っていても構わないが，さてさて。以前に何をしていたのかという話は，直接にいったときに，その学区の話としては結構大事なのだが。
＜西嶋
　例えば団体名を列挙して，過去にも経験したことのある職には△をしてくださいと。現在も兼務しているものは○をしてください，といった形であればどうか。
＜乾

おそらくアンケートでそれをやると混乱すると思う。そんなにロジカルに考えてくれないと思うから，○なら○，今やっている仕事は何ですか？と聞かれれば，これとこれとこれの方がいいと思う。今やっている仕事は仕事で聴いたうえで，分けて，さてさて，あなたが連合会長をやる前にしていた仕事は何ですかと言う形で，聞くならもう一項目をつけなければならない。

＜安本

男女の別も聞くのか。男性と決まっているのか。

＜乾

このアンケートの送り先は把握できるから。ところでこの調査票は学区を特定して出すのか。要するに戻ってきたアンケートがどこの学区のものかがわからないといったことにはならないのだな。これはどう扱うのか。

＜事務局

私たちが依頼するときには，学区に対して依頼することになる。名前を書いてくる人もあれば，そうではない人も出てくると思う。

＜乾

私は今まで一対一対応ができると思っていたが，数量的に処理するほどのデータではないから，本当は各学区との状況と照らし合わせながら作業すると思っていた。市の方でわかっているデータがあるので，と先ほど言ったが，それはどの学区から戻ってきたかがわかってこそ意味のある話だ。このデータは属性をはっきりさせておきたくて，それを記名でお願いしても問題がないかどうかだ。

＜西嶋

まずはそこが問題だ。

＜乾

こっそりと印を付けておくという姑息な手段もあるにはあるのだが。

＜西嶋

相手が相手だけに。

＜事務局

もしそうするならば，きっちりとご説明をしなければならない。京都市の基礎データを取るという趣旨のアンケートと，学区という出ることによって，支障があると思われる方もいると思うので。それであれば送るときにきっちりとどういう趣旨でこの学区の特色という形で出ますよという形で断っておかなければならない。

＜乾

記名にすると正直なところを書いてくれないということもある。悩みなどは。そのとおりだ。今までその点については頭から飛んでいたが。本当は記名で欲しいのだが，記名にすると自治連合会長一人ひとりにきっちりと断って，こういう趣旨で実施しますと断らなければならなくなる。無記名なら確かに悩みも含めて答えてくれやすいかもしれないが，マックス７０数学区のデータだから，京都市の一般でもないし。その後のデータとしてどう扱っていくかを考えなければならない。

＜安本
　学区の基礎体力，悩み，やる気といったものを聞くとして，悩みを聞くのであれば無記名で本当の悩みを書いてもらいたいと思う。一番肝心なところを聞くのであればその方がいいと思う。
＜上村
　無記名にしておいて，故意的に色分けをして用紙を出してはどうか。返ってきたらある程度は把握できるが。
＜宗田
　昔はよくやったのだが。最近はそのやり方は難しい。
＜乾
　特に自治連合会長にそれをやると始末がつかなくなってしまう。やるならば正攻法で行くべきだと思う。
＜西嶋
　例えばフルネームで書いてもらうのではなく，学区名を書いてもらうということでも，同じことと言えば同じだが，多少違いがある。なおかつそれを書くことによって，全てのアンケート項目が変わってくる方が多いのか。私がもしその立場で受けた場合に，ほとんど学区のことを聞いているわけで，学区の代表として嘘をかくわけではないのだから。ちゃんとしたところから来ているのだから，きっちり書いてくれると思うが。
＜宗田
　この種のアンケートを会長が書く場合は，むしろ外に対しては記名でいいと思う。京都市とか。しかし中の皆さんには見せたくない内容がいっぱいあると思う。自分が会長としてどんなことを悩んでいるかということは，はっきりとは中の人にはこう書いたら誰かが怒るだろうと思って，中の人に内緒ならばこれ書いて出すぞとみたいな。学区の悩みごとなどを書いてしまうと各方面に迷惑を掛けてしまう。そういった特殊なアンケートで，個人に関するアンケートであれば無記名であれば正直に書くということになるのだが，自治連の会長という微妙な中間的な立場だと，その辺の複雑な心理が働くと思う。
＜西村
　但し書きを加えても駄目だろうか。記名にして「ただし統計的な利用にしか一切，町内でそれを公開するといったことには使いません」といった形で。
＜乾
　いずれにせよ，但し書きはいれなければならないと思う。但し書きを入れたとして，二つの問題があって，自治連合会長がそれをどう思うのかということと，実は京都市が記名的な話で動かしていくときに，そういう形で手続き的な問題で大丈夫かどうかということを確認しながら進まなければならないのだが。まずは自治連合会長のほうでいこうか。自治連合会長は，例えば学区名くらいならば嫌でなければ書いてくれるかな，もし差し支えなければ学区名をお書きくださいというくらいの話で進むか。

＜西嶋
　もちろん無記名ならば２２７学区すべてに送ればいいわけだ。帰ってくるのかどうかは別として，無記名だとどこから返ってきたのかが分からないのだから。一応限定して実施しようというのであれば，先ほどにもあったように「差し支えなければ」というところは入れていいのではないかと思う。
＜乾
　正直に言って，前回まで田中さんの話を聞いて，ヒアリングといったところからイメージを進めているものだから，絶対確定的に学区の情報を得るというイメージでここまできていたので。突然はたと気がついたのだが，それでいけるのかどうか。だから逆に言うと，ここの場では学区は特定したい。そうではないとデータとして，マックス７０いくらのデータなんて非常に使いにくいということになっていく。正直言ってここに書いてあるデータだけでは良くわからないわけで，学区の状況がなんとなく京都市の他のデータで浮かび上がりながら，そこの会長さんがどうしているのかという話ができる。つまりあそこは新興住宅地だからこんな悩みもあるわなとか，町のど真ん中でもこんな問題でもあるのかということが見えてこないと，たぶんあまり意味がないと思う。
＜宗田
　注意しなければならないのは普通のアンケートとは違うわけで，学区の悩みを聞いたときに，それに対して京都市は何もしないのかという話がある。連合会長のような立場の人が京都市やフォーラムからアンケートが届けられて，そこに書いたら期待すると思う。
＜安本
　アンケートの結果は出すのか。
＜乾
　結果は出す。
＜安本
　それはどこに向かって出すのか。
＜宗田
　まだ使い方の議論は行っていないと思うが，当然ここで議論している場所で
＜安本
　記名してくれたところだけに返すのか。
＜乾
　まず冊子では使う。ただしどこそこの学区がどうであるといった使い方はしない。答えてくれた人には，７０いくつ聞いたらこういう状況でしたというのは出す。そのときでも，その学区の話以外の話はあまり特定的な形では返さない。そういう返し方になるはずだ。宗田さんが指摘したことは前から懸案としてあって，特に地域づくり推進課はどきどきものだと思うが，聞いた話が直接区に戻ってくる可能性がある。それは返すときに，意を尽くしてメッセージ付きで返さざるを得ないと思う。

＜宗田
　あるいは最初の断り書きに「これは無記名で多くの方から集めているアンケートなので，個別の案件にはお答えできない」といったニュアンスのことを書いて，これはあくまでも
＜乾
　無記名というのは「たくさんの学区のデータを集めて，今後の京都市政に活かそうという趣旨です」というくらいのものだ。
＜宗田
　その悩みを書くときに，その内容を書こうと思えばいくらでも細かく書けるわけだ。その地域が特定できるような。だからそこまでは書かないでねと。その悩みに関して大雑把に新旧住民の融和が図られていないとか，高齢化が進んでいますとか，だからむしろ悩みというやつも最初から選択肢で聞いていくようなやり方でないと。
＜西嶋
　そんなに深く入ったところで対応できない。
＜乾
　まず悩みという言葉を使うかどうかも問題であって，今現在の案では「課題として認識していること」となっているので，そういう書き方になっていて，表現そのものは工夫する。そして当然選択肢で問う形にする。そして「その他」という項目を設けて，書きたい人には書いてもらうということになると思う。そういった形でいいだろうか。学区名を差し支えなければ学区名を御記入くださいという欄を設けておいて，あいさつ文そのもののなかに，「これは基礎的なデータを集めるのだ」と。要するにアンケートは地域参加のあり方を考えるための基礎的データを集めるための調査ですときっちり書いておくと。
＜西嶋
　あくまで７２学区というのは，盛んに地域活動を行っている学区のはずだ。そこにアンケートをするのだから，たぶん学区名を書くことに対して，さほど抵抗はないと思う。
＜乾
　それではそういうことで，時間配分の問題もあるので，必要があれば後で戻ることにしたい。だいたいそのくらいの話を抑えると。先ほどの直前の話については検討事項としておこうか。やるのであればそういう形でやるということで，質問項目の分量の問題もあるので。
＜西嶋
　例えば，今までに経験された職には○をしてもらって，その次の項目で，現在もされているのは○という形にすれば分かると思う。
＜乾
　聞き方の問題だ。どちらをメインにするかという問題もあるし。それは工夫することにしよう。そして量が多くなってきたらペンディングにしておいて，何のために聞

くのかという話をもう少し詰めていくことにしよう。
　二番目が地域の状況と書きながら，言葉の位置づけは色々考えなければならないが，自治連合会に関する情報だ。ここで書くべきこと，聞き方，取り分けこのままでは答えられないだろうなと感じるのは構成団体というか，実はこれ，構成団体と言いながら，実は自治連合会の性格を聞いているのだ。
＜安本
　設問内容が難しいと思うのだが。
＜乾
　だからこの設問はこのままでは難しいと思う。
＜西嶋
　それならば他の項目についてはどうか。
＜乾
　まずはその設問までについて見ていこうか。
＜宗田
　加入率というものは学区が特定できるのであれば，区役所にその学区の世帯数を問い合わせればわかると思うが。加入世帯数を書いてもらえば加入率は正確に出てくると思う。加入率を聞くとなると，それをその方が計算するわけだが，計算を間違えたり，世帯数を知らなかったりといったことが問題になってくる。
＜西嶋
　私もその問題が生じるのではないかと感じる。加入率ではなく全所帯が何書体あるのかということが，把握できているかどうかということが大きな問題だと思う。
＜宗田
　加入世帯数までは学区の方に聞くしかないのだ。市では分からないから。性格であろうとなかろうと。
＜乾
　そのとおりなのだが，「よろしければ学区をお書きください」としたときに，書いている学区もあれば書いてないところもでてくる。そうすると…まあ大体は想像がつくと思うが。それは量の問題で。計算できると言うのはそのとおり。書いてもらうとすれば，加入率よりも加入世帯数を書いてもらえばそれでいい。
＜西嶋
　全世帯数と加入世帯数の両方を書いてもらう。加入率はいらない。
＜事務局
　悩ましいところは発足時期についてだが，京都で考えうる転換期のようなものがあれば，それを境として調査してもいいかと思ったのだが，特にないのであれば調査する意味は何なのかということがよくわからないのだが。
＜宗田
　今の自治連合会の発足時期というものは昭和３０年以降だ。それまではＧＨＱの統制下にあったので。だが実際に自治連の会長にそれを聞いてみると違っていて，戦前

の隣組とか番組小学校の頃のことを考えると，それより以前のものだと考えている人もいる。
＜西嶋
　そういうことになる。ただ自治連合会という名称ではなかったかもしれないが。その地元の会長の写真などはかなり昔のものも含めて残っていたりする。
＜宗田
　学区が残っている場合は昔の組織も含めて残っている。
＜事務局
　それでは想定できるのは昭和３０年以降・・・・
＜乾
　それとは別に学区の組織は名乗り方がまちまちで，組織の形式がいくつもあるので名前がいつの間にか変わっているとかいうものがあって，「どちらのことを書くのか」ということもあると思う。
＜安本
　色んないいかたとはどういうことか。
＜乾
　例えば上京などは昭和４０年代に住民福祉連合会といった名称に変更している。自治連合会だがそういう名称で呼んでいるところもある。だから先ほどの話にも関係するが，戦前から活動していると考える人もいれば，自治連合会として発足した時期と考える人もいたり，どちらを答えるのかという問題がある。
＜宗田
　必ずしもみんなが知っているとは限らない情報だ。
＜事務局
　その場合，設問としているのかいらないのかということになってくる。
＜乾
　発足時期ね。ただどれくらいから活動しているのかということは聞きたいが。
＜安本
　うちは久我の森なのだが，旧来の組織と新しい住民を対象とした組織と二つの組織があって，その両方に加入している。両方の地だけの集まりと，若い世代の本当の自治連のような組織がある。
＜西嶋
　それは小学校区としての組織と？
＜安本
　それは若い世代の方で，小学校区とは別の地の組織がある。
＜乾
　農村の組織が残っているのだろう。
＜安本
　そのような旧農村地域の人は両方に入らないと，夏祭りなどに参加できない。

＜乾
　夏祭りの方は古い方でやっているのか
＜安本
　古い方だ。だから重複しているところが何件もある。
＜乾
　会費はどうなっているのか
＜安本
　地の方はわからない
＜乾
　それは
＜西嶋
　その新しい組織と古い組織の長はどうなっているのか。
＜安本
　地の方はわからない
＜西嶋
　わからないということは公的な組織ではないということだ。
＜安本
　公的のことだ。
＜宗田
　大原野とか周辺にいると財産区というものがある。確か・・・以下洛西ニュータウンの話
＜乾
　発足時期については多少の誤差があるかもしてないが，むしろさっき言ったような話。以前は漠然とまとめられていたものを，それ以降で起こってきた話に着目して調査すればいいと思う。むしろ比較的新しい時期から動き始めたとか，そういう意味合いで取っていこう。
　会則はわかるとして，選任方法は選択肢で選らでもらう。
＜西嶋
　会費の徴収と言うのは？連合会として各町内を通じて徴収しているかということだが。基本的にはしていると思うが，そういう前提でいいのだろうか。
＜安本
　会費がないと運営できない。
＜乾
　これもおそらく二種類ある。一度連合会でまとめて再配分しているところと，各町内会でまとめて分担金を連合会に納めているところと。確かあるはずだ。それを聞き出すとややこしい。
＜西嶋
　町内会のお金があがってきちているのは確かだということか。

＜乾
　そういうことにしておこう。お金の話はなかなか。
　役員構成はいいとして。下の話にも通じるのだが，役員の役職を聞くと，下の話がある程度想像がつくのだが。各団と町内会長が混じっているのか，町内会長だけで構成されているのか。ただ町内会長と各団の役職を兼務している人もいるからなかなか難しいのだが。
＜西嶋
　確かに連合会の組織の中には各種団体だけで組織されているところもあるということか。
＜乾
　それが自治連合会と名乗っていない場合もあるし，各種団体連絡協議会なんて名乗っているところもあるし，だからネーミングの話については事務局からも指摘があって，むしろ配るときには誤解のないように，場合によっては差し出し名を変えて配らなければならない場合もあるということだ。しかしネーミングを変えたら特定できてしまうが。確かにそれの方がいいかもしれないが。むしろ役員の構成，年齢だけではなくて，役員の構成，年齢だけではなくて，もし可能であれば役員の役職を。
＜西嶋
　年齢と言うのはどういうことを聞くのか。
＜乾
　要は年寄りだらけなのか若い人も頑張っているのかということを聞く質問項目だ。
＜事務局
　年齢に関しては，役員の年齢を会長が掴んでいるのかと言うことも含めて議論の余地があると思うが。どうかなというのはある。
＜乾
　役員のことくらいはだいたい知っているのではないかと思うが。
＜西嶋
　漠然としたことはわかっているとは思うが。
＜事務局
　会長さんが確認して回るということも考えられるが。
＜宗田
　だから自治連合会の役員に関しては，「高齢者が多い」「そうでもない」といった程度の質問項目にしてはどうか。
＜事務局
　そうなると「高齢者が多いとだめなのか」といった反応も出てきて，アンケート事態が危うくなることも考えられる。
＜乾
　だからこの項目は工夫した方がいいと思う。８０代とか７０代とか聞くと，ものすごく厳密に考える人がでてくる。だから大体何歳前後とか，それくらいの書き方でど

うか。こちらもそれでいいわけではないか。７５歳前後の方何人とか。
＜宗田
　年齢を聞くのが苦しいのならば「１０年以上頑張っている方」とか，若い人が頑張っているとか，そういう聞き方にしてはどうか。
＜乾
　ただ自治連合会で５０代，６０代といえば若手ではないか。だからそれを拾いたいということになるから。若いといった抽象的な言葉は，答える人によって変わってきてしまうと思う。
＜宗田
　要するにこの設問で何がききたいのか。
＜乾
　どれくらいの年齢で構成されているかどうか。要するに年寄りばかりで構成されていて動いていないということなのではないか。動いていないとかは別として。若手が出てきていないという話と，４０代，５０代がいるかどうかという。
＜西嶋
　平均年齢を聞くということでは駄目なのか。
＜宗田
　それは悩みの部分で「世代交代がうまくいっていない」といったチェック項目に答えてもらうことでわかるのではないか。
＜乾
　今の話で言うと，言葉で漠然と，結構７０を越した人が多いという選択肢とか，６０代くらいで頑張っている人もいるとかね。４０代，５０代の人もいるとか，そういう選択肢で聞くという手もあるが。
＜西嶋
　もしくは連合会長の年齢を聞いたら，だいたい分かると思う。会長よりも高齢の人ばかりということはないと思う。ここで分かると思う。特に神社関係のことをやってもらうのは当然，連合会長が６０であっても当然，連合会長が６０であっても，当然，８０代の方がやるだろうし，世代交代ができているかどうかということは会長の年齢で判ると思う。
＜乾
　５０代の人が何人，６０代の人が何人といった形で聞けばいいのではないか。
＜事務局
　会長が役員の年齢を知っているかどうかがネックになるのではないかと感じるが。
＜乾
　言葉づかいの問題はあるが，「あいつは６０代で若手や」といった程度のことは分かると思う。あまり厳密にやらない程度だと思うが，５０代，６０代が混ざっているかどうかという話を確認しよう。その方がまだいいかもしれない。難しいかな。そもそもこの項目がいるかどうかという話だが，若手がいるかどうかということを確認する

うえで，あった方がいいのではないかと思う。世代交代がある程度進んでいるかどうかという話は，会長の年齢からある程度は想像がつくとはいいながらも，むしろその会長さんが意図的にそういうやつを入れているかどうかとか。
＜安本
　若い世代を育てられているかどうかということか。
＜乾
　そうだ。
＜西嶋
　だから役員構成の中枢が８０代，７０代，６０代とあって，どこに○をするかと。それくらいでもいいのかもしれない。イメージだけどね。
＜乾
　今日のところは「こういうデータが必要かどうか」ということで，聞き方は工夫したいと思う。だからいらないならば聞かなくてもいいのだが，私はあった方がいいと思う。
＜宗田
　課題として「世代交代が進んできるか」という形で聞くことにしないか。
＜乾
　そういう形で聞くということだ。「若い人がいますか」とか。そういう聞き方。
＜宗田
　その「若い」がどういう年齢かはいいのか。
＜安本
　私は「若い」と聞くと，３０代，４０代を想像してしまう。
＜乾
　ここは書き方で工夫しよう。
＜西嶋
　次の項目が問題だ。
＜乾
　各種団体だけで構成されているのか，町内会長だけなのか，混ざっているのか，色々なパターンがあると考えられる。
＜安本
　これは一つしか○がつけられないのか。
＜西嶋
　構成は一つだろう。
＜安本
　うちは一番なのだが，自治連合会がまた大きな組織を構成している。
＜事務局
　それは学区を越えた組織ではないか。
＜乾

それは大丈夫だ。
＜事務局
そのように混乱を招くようなわかりにくい設問だ。
＜安本
難しい設問だ。
＜乾
ヒアリングにいくとすぐにわかるのだが，一般化して聞こうと思うとここなのだ。
＜事務局
作成していてその次の部分が悩んだ部分なのだが。
＜安本
３番っているのか。この設問は必要なのか。
＜乾
要するに町内会連合会があって，それ以外に各種団体連合会が並存している場合と，町内会と各種団体が一緒になって自治連合会を名乗っている場合と，町内会と各種団体があるのだが，それが連絡協議会を設けていつも調整している場合と，それがこの選択肢だ。
＜上村
文章にすると分かりにくいが，組織図を作ったらいいのでは。
＜西嶋
ただこの設問で行くと１番が一番オーソドックスはパターンだと思うが。
＜乾
右京区に行くとオーソドックスではないのだ。右京は町内会連合会がものすごく多い。
＜西嶋
そうすると自治連合会と書くとややこしいから「町内内連合会」と書けばどうか。
＜乾
右京では町内会連合会が自治連合会と名乗っているのだ。
＜西嶋
それならば１番と３番を書いて，それ以外の場合は書いてもらってはどうか。
＜乾
そういう意味では，メインになりそうなものはもう少し言葉を継ぎ足して選ぶという方法はあると思う。ちゃんと説明してね。
もう一つ思うのだが，よその自治会のことを知らないから確認しておきたいのだが，自治連合会選出のときの選挙権を誰がもっているかという話と，この組織の話がイコールになるのかどうか，つまり町内会連合会長と言うものは町内会長の互選できまるわけだ。それで各種団体も入っていれば，各団の長も入って選ぶはずだ。自治連合会長は。だから自治連合会長を選ぶときの選挙権を誰が持っているかだとか，あるいわ学区の中の予算配分をどこが集まって相談しているかとか，そういった設問から想像

することもできる。町内会連合会の場合は町内会連合会で決定して各種団体へ渡しているので，文句が出る。しかし町内会連合会でも各種団体との連絡会議を持っていれば，そこで決めるとか。だからその二つくらいを絡めてプラスアルファくらいで聞いておくと，すこし補強できるかもしれないと言うのがあるのだが，そうすると段々質問項目が増えていってしまう。

＜事務局

選任方法と合わせて聞くというのも一つの方法かもしれない。選挙であればどういったメンバーで選んでいるかだとか。

＜乾

そうだ。互選ならばどういうメンバーで互選をするのかとか。

＜宗田

この種の質問はできるだけ誤解のないように簡単にするべきだということが一つと，あなたの自治連合会は「町内会だけで構成されている」「町内会と各種団体が入っている」くらいの組み合わせで聞いていった方がいいと思う。

＜乾

その言葉だと非常にいいと思う。

＜西村

この部会に入って，まだ組織というものが頭の中で整理できていない。ここのポイントはぜひ聞きたいというか，言葉にすると色々と混乱してくるから，単純な絵にして，当てはまらないなら絵を描いてもらってもいいのではないかと思うが。

＜宗田

絵は確かにわかりやすいのだが，絵の描き方は人によってバラバラだ。

＜乾

それと絵で考えられる人とそうでない人がいる。どちらが悪いということではなしに，絵で書くと余計にわからなくなる人がいる。

＜宗田

地図なんかを書かせて，その書き方を分析するなんていう方法もあるくらいだ。

＜乾

今の宗田先生の意見を基本としておいて，絡め手でさっきの選任方法のところで町内会長を選ぶときに，どういう人を加えているかというのを入れておけば，ある程度想像がつくと思う。

＜西嶋

その点で言うと，構成団体というよりも，まず自治連合会というのは，そこの書いていただいたところでは，どういった組織であるか，これは町内会連合会である，もしくは町内会と各種団体の連合である，若しくは各種団体だけの連絡会である，それ以外，といった４つくらいから選んでもらうと。自治連合会とはどういったイメージなのかがわからないことには。

＜安本

資料４のタイトル自体が「地域団体等」なのでよく分からなくなる。自治連合会と書けない理由がわかる気がする。
＜乾
基本的には選ばせるしかないのだが，言葉をもう少し工夫することにしようか。知恵を集めて，要するに答えやすい。
＜西嶋
いま私が言った内容ならば，基礎データのところで聞いてもいいかもしれない。
＜事務局
そうだ。まず自治連と言われているあなたの組織はどんなものなのか，ということを聞いて，その後に発足時期や会則などを聞いていくとすっきりすると思う。
＜乾
まずどういう組織なのかということを確認するということで。だからそういう中で，
＜宗田
それだけは分ければいいではないか。それから先ほどの会長の選任方式については，会長の選任に加わる人を教えてくださいと書いて，全住民，町内会長，各種団体の代表とか，選択肢を作って○を付けてもらえばいい。
＜乾
そういう形にするとおおよそわかってくる。
＜宗田
それから予算はどこでだれが決めますかといった設問にして。それからここで各種団体というものがでてくるが，各種団体に何が入っているかを聞かなければならないと思う。
＜乾
ここは聞いていたっけ。
＜宗田
あるいは○を付けてもらえば。
＜事務局
聞いたいるところはないと思うが・・・
＜乾
だから地域の中にどのような各種団体があるかという項目だ。
＜宗田
それは○を付けてもらってはどうか。
＜乾
予算配分のやり方は聞くのか。そこまではなくてもいいと思う。
＜西嶋
先ほどＰＴＡの話がでていたが，連合会組織にＰＴＡが入っているところと入っていないところがある。それが大きな課題と言えば課題だ。
＜乾

各種団体の聞き方については整理整頓しなければならなくて，要するに自治連合会に入っている各種団体だというところと，入ってはいないが各種団体扱いになっているところとがでてくる。
＜宗田
自治連合会に入っていないがお付き合いのある各種団体も多い。
＜乾
非常に微妙だな。
＜安本
ＰＴＡが入っているか入っていないかに関わらず，学校だとコピーもＦＡＸもあるから会議を学校でやるケースが多い。自治連合会の会合を。そういう意味では大きな役割は果たしてはいる。
＜乾
少し整理しよう。どんな各種団体があるのかも聞きたい。そのときには自治連合会に入っている各種団体を聞くのと，いわば連絡協議会みたいなものがある中で，一緒に活動している場合と，それ以外は個別の人的な付き合いと言うことになるから組織を聞くことはできない。そういう視点で整理しなければならない。各種団体も聞くと，そして自治連合会は組織の形態を確認する台詞で聞くと。
＜上村
アンケートの下の枠のところに選択肢の枠を作っておいて，数字の１からなんぼの，大まかに自治連合会にある分と，イロハか何かでわけてグループを作っておいたら，こっちのグループなのかどういうので構成されているのか，下から数字で記号で答えてくれという形にしたら，ある程度読み込めるのではないか。いちいち一つずつ文章にするのではなくて，下の選択肢から選んでくるとか。
＜宗田
その作業が面倒くさく感じる人もいるだろう。
＜西嶋
７２学区の中で各種団体がどれだけあるのかということが。
＜乾
それを２０日にはある程度分かっている範囲は持ってきてもらえるという話になっていたと思う。ある程度は掴みつつあるんでしょ。
＜事務局
掴んでいるのは安心安全ネットを実施している団体の名簿はいただいている。その中に連合会が入っているところと，そうでないところもあるし，そこまでは掴んでいる。
＜乾
詳しくは区役所レベルに聞かないといけないと思うが，
＜事務局
区に聞くか直接聞くか。

＜乾
　直接聞くというのはしんどくなると思うが。
＜西嶋
　連合会が加入していないということは，連合会がないということなのか。
＜事務局
　それはわからない。あっても安心安全ネットに入っていない場合もあるので。
＜西嶋
　安心安全ネットに入っているかいないかということか。
＜事務局
　地域づくりで分かるのはそこまでだ。安心安全ネットの場合は名簿があるのでわかる。その中に自治連が入っていないところもある。北区や上京区では自治連合会がないところが多いということは聞いてはいるが。
＜乾
　２０日の段階で可能な限り，数はそんなに多くないので。わからないところは。それくらいは区に確認しておいてもらえないか。
＜事務局
　それを区が掴んでいるかどうかはわからない。
＜乾
　それを聞いてみないとわからないだろう。少なくとも地域づくりよりは区の方が把握しているだろうから，自治連合会がないのかどうかとか，自治連がないのなれば，どこがその役割を果たしているのかとか。それを問い合わせるところまではやっておいてもらえないか。
＜西嶋
　乾先生のおっしゃることももっともなことだが，それ以前にこのアンケートというのは，まず連合会長の属性情報を書いてもらうということは，その学区の連合会長にお届けするもののはずだ。
＜乾
　そうだ。
＜西嶋
　ただ，お届けはするが，７２学区をどうやって選んだのかということは，暗視安全ネットの活動されているところならば協力的だというのがあって，そこにするわけで，それが連合会の名前がそこに入っていないと，いうところでも，ではその代表がこのアンケート調査に記名してもらうのではなしに，そこの連合会長に渡してもらわなければならない。
＜事務局
　その辺りをどう取り扱うかについては，まだ決まっていないと思う。入っているところは問題ないが，入っていないところは安心安全ネットの代表者に聞くのか，それとも区役所から渡してもらうやり方にするのか，その辺ははっきり決まってい

ない。
＜乾
　そのために少なくともデータは２０日に知りたいのだ。まずアクションを起こす前に。自治連合会は厳然としてあるのだけども，安心安全ではつながっていないというとことが一番困るのではないか。まずね。自治連合会はあるのだが，安心安全にそっぽを向いているところがあるのでは，それはそれで考えなければならない。もしくは自治連合会という名前ではないが，この組織がその代わりをしているよというところはそこを対象に考えなければならないし。そこだけ知りたい。対象の。
＜西嶋
　ただ，この７２学区は連合会長に送るのではないか。
＜乾
　だから自治連合会長的な人だ。
＜西嶋
　そうなのか？
＜乾
　要するに自治連合会を名乗っていない場合があるわけではないか。
＜西嶋
　その場合は別だが。
＜乾
　だからそのケースだけのことだ。自治連合会というものが存在するのならば，当然自治連合会に届くようにする。要するに自治連合会を名乗っていない，各種団体連絡協議会のようなものしかないところが仮にあったとしてたときには，仕方がないのでその組織の長に届けなければならなくなるということだ。
＜西嶋
　例えばそれがわからないのであれば，市政協力委員長にお願いするとか。
＜乾
　だからその辺りを２０日に，このリストに対して，「ここは自治連合会がありますよ」とか。ないところが仮に１０くらいなのならば，１０くらいのところが大体どのような状態なのかは区レベルまでは問い合わせて掴んでおいてくれないか，ということだ。
＜西嶋
　その６０いくつは自治連合会長の名前が役員構成の中に入っているというとだとすると，その場合に例えば，本能が安心安全ネットをやったとして，それが防災委員長がその安心安全ネットをやったとすると，そこにアンケートが届くわけなのか。
＜乾
　そうではない。
＜西嶋
　それは違うのか。

＜乾
　そのような確認がされて進んでいる。いま話しをしているのは自治連合会がないところの話だ。
＜事務局
　安心安全ネットをやっている学区で，自治連合会があるのに入っていない学区と言うのはあまりないと思う。
＜乾
　だから２０日に極力そのデータを持ってきて欲しいというお願いだ。
＜安本
　学区の代表者であることには間違いないのか。自治連合会的な役割を果たしているところに聞くということではないのか。
＜乾
　基本的にはそうだ。先ほどから話し合っているのは，残りのところは，どこがその役割を果たしているのかを把握するところまでは，事務局に辿り着いておいてほしいということだ。そうすると調査の方法がはっきりしてくる。そういうお願いだ。
＜西嶋
　今の乾先生がおっしゃった中で，それがわからないところについては，そこだけでも代わりに，市政協力委員長に
＜乾
　それについては２０日に相談しよう。もしもで語らずに２０日に対応を相談しよう。
　ということで構成団体については言葉の工夫をするということでいくことにして，会合場所というのは，集会施設を所有しているかどうかということか。次に会合の回数だが，総会と役員会を分けて聞かないと。これは役員会のイメージだな。
＜西嶋
　そのようだ。自治連合会役員会の会合の回数だろうな。
＜乾
　あとは総会だが，「総会をやっているか」という質問はあるかもしれない。総会の回数を聞けばいいのか。
＜安本
　総会というのは？
＜乾
　要は連合会の構成メンバーが全員集まる会と役員会とがあるということだ。頑張っている学区でも，大抵は役員会で行っている。要するに会長一人で頑張っているところもあれば，少なくとも助け合える役員がいるのかどうかということだ。それと総会の話は，ちゃんと運営されているかどうかということだ。西嶋さんのところは総会を２回やっているか。
＜西嶋

普通は予算と決算で２回やるものなのではないのか。
＜乾
予算と決算を１回でやっているところもある。
という辺りで裏面に移って，地域の特色というのは選択肢で聞くのか。
＜事務局
今の案ではそのように考えている。
＜宗田
住，商，工で聞いているわけか。
＜乾
今度聞くところに林というのは入ってくるだろうか。たぶん農だけで林は外しておいてもいいと考えている。
＜宗田
林業地域の町会費の話
＜安本
地域の特色についてはどうなったのか。
＜乾
今の段階では選択肢の内容まで固めるつもりはない。こういう話を聞いておいて欲しいということだ。特にこれは学区が特定できればそれだけである程度は分かると思うし，会長がどのように理解しているかということだ。
ところで転入世帯数というのは何を聞くのか。
＜事務局
大きな動きとして増えているか減っているかを聞く項目だ。
＜乾
３の方は，その活動を行ううえでの課題を聞いているではないか。そのときにあなたの学区の課題，例えば人口が減っているとか，産業が衰退しているとか，いわゆる会長が把握している学区の課題を聞いた方がいいと思う。転入転出の話も地域課題として聞いた方がいいと思う。
＜西嶋
地域課題というより活動状況だが，もう少し，自治連若しくは連合会組織として，主催する活動が何であるか，ここで学区民体育祭をやっているといったことは体振の活動であって。連合会として何をしているかということを聞いてはどうか。地域地域で連合会が本当に機能しているかどうかというのは，主催をしているかどうかでわかる。敬老会は老人クラブがやっているとか，たいしんは学区民体育祭をやっているといったことを書いても，そのような活動は他の組織の中で動いているものだから。
＜乾
かといって学区の中でやっている行事も聞いておきたい。だから行事名をざっと並べておいて，そこに主催団体はどこですかという聞き方をすればわかるのではな

いかと思うが。
＜西嶋
　もしくは主たるイベント，だいたい出せば分かると思う。大きくは区民運動会，敬老会，夏祭り，餅つき・・・
＜乾
　他に何があるだろうか。地蔵盆はあまり学区でやっているところはないから。
＜上村
　うちは友愛会のバザーが学校で必ずある。
＜西嶋
　友愛会とはどのような組織なのか。
＜上村
　もともとは女性会がやっていたことだ。
＜乾
　いくつかどこにでもありそうな行事を書いておいて，それ以外にやっている特長的な取組があれば書いてくださいといったようにしておけばどうかと思う。そしてそれぞれで主催を書いてもらってはどうか。イベントを書いて主催を確認すると。
＜安本
　学区内で活動しているＮＰＯとかボランティア団体の話はわかるだろうか。
＜乾
　これは難しいと思う。たぶん分からないと思う。だから聞くのならば，少し長くなるのだが，民生児童委員や社協など以外で，福祉活動や子育て，環境保護などを有志で活動しているグループがありますかとか，たぶん聞くのならばそれくらい丁寧に聞かなければならないと思う。要は通常の地域組織や各種団体以外にそんなところをやっているグループがあるかどうかを聞きたいわけだろ。ここはね。
＜西嶋
　それでいいのではないか。
＜乾
　逆に通常の地域組織ということを想像すると訳がわからなくなってくるかもしれない。カラオケグループとか何とか。
＜西嶋
　ＮＰＯなんかになってきたら分からないと思う。
＜乾
　だからそれでも聞いておきたい。常に市民参加の教科書では，地域組織とＮＰＯの協力は望ましいと書いてある。だいたい書いてある。
　ただ滋野学区はビッグツリーというＮＰＯが野焼きなので活動をしているのだが，女性会と社協がそれに全面協力している。そのようなものも徐々に始まりつつある。だからまったくゼロではない。
＜上村

深草でも竹を利用して竹炭を作ったり，直違橋商店街のところでブースを設けて活動しているところもある。
＜事務局
　アンケートに関しては地域の活動事例をどのように集めていくのかということも考えておかなければならない。
＜乾
　聞いておかなければならないというのはわかっている。例え空振りに終わったとしても。
＜西嶋
　聞くとしたら「ありますか」ではなくて「連携していますか」ではないのか。
＜乾
　そういうことだ。あると答えたところは連携の状況はどうなっているかということだ。要するに聞きたいのは連携の話なのだ。だから聞く前にＮＰＯやボランティアグループについて説明を加えておかなければならないということだ。
＜宗田
　逆に言うと，連携しているのであればＮＰＯという言葉も知っているだろうし，知らないのであれば連携していないのでは。
＜乾
　その活動団体がＮＰＯという名前ではないかもしれない。ＮＰＯを名乗っている団体との連携であればいいのだが。例えば竹炭グループがＮＰＯと名乗っているかどうかという部分が。
＜宗田
　それはボランティアグループなのではないか。
＜乾
　それはそのように認識されているのだろうか。要はそこが問題なのだ。会長が見て，「こういうグループはある」ということは分かっていたとしても，ボランティアグループと聞かれた場合に，お年寄りを迎えにいったりといった介護ボランティアのようなイメージがある。一般的にはそうだと思う。
＜西嶋
　だけど連携して活動しているグループがありますかという設問だから
＜乾
　要は地域の各種団体以外に連携しているところがあるかということだ。
＜事務局
　事例としてはＮＰＯでもボランティアグループでも拾っていければいいのだから，連携をしているかどうかをまず聞けばいいのではないか。そしてその名称を答えてもらえばいいと思う。
＜宗田
　それを書いてもらえばいい。ＮＰＯかどうかは京都府の名簿を見ればわかること

だ。
＜乾
　もしあり得るとすれば竹下委員のような話で，子どもたちのサークルだとか，今の竹炭のような話だとか，比較的地域で収まっているレベルの話はまだあると思う。
＜西嶋
　それを知っていますかでは大変温度差があるだろうし，その方々と連携して何かをやっているかということだから，
＜乾
　連携とか援助とか。少し拡大できるようにして。支援しているとかね。それはいいことだから支援しているとかね。そういう聞き方だろう。ＮＰＯやボランティアグループではなくて，各種団体以外の団体といった聞き方になるだろう。
＜事務局
　そのようにすれば大学との連携も挙がってくるかもしれない。
＜乾
　それも書いてもらえばいいと思う。
＜西嶋
　この前の議論で「今の地域活動に満足しているか」という設問があったが，満足していればこの後は答えなくていいわけだから。
＜乾
　それは聞きたいと思う。総合評価のようなものだ。
＜宗田
　いやいや。満足していても力を入れたいこともあるだろうし。
＜乾
　当然両立するが総合評価はぜひ聞きたい。
＜宗田
　それは必要だ。それと自治連合会の運営を工夫したいかという設問があるのだが，改善なのではないか。
＜事務局
　改善したいかと問われれば，全ての学区が「はい」と答えるのではないかという懸念があったので。
＜宗田
　それは「工夫」でも同じではないか。
＜乾
　自治連合会の運営を改善したいか・・・それは総合評価を聞けば敢えて聞かなくてもいいと思うが。
＜宗田
　そうだ。工夫というのは様々な工夫を試してみて，その中から一番いいものを選ぶという行為だ。そこまでは皆さんしないと思うのだが。

＜乾
　工夫という言葉は色々と誤解が生じる可能性がある。事務局が心配するように改善という表現にしたからといって，みんなが〇をしてくるとは思えないが。
＜事務局
　現状に満足されていたら〇をしないかもしれない。
＜乾
　評価の中で「現状のままでよい」とかね。
＜宗田
　改善する取組がありますかというのはどうだろう。
＜乾
　取組があるかというのと改善をしたいかというのはかなりトーンが違うと思う。
＜宗田
　だから改善したいかときけばその気持ちはあるという，やるかやらないかは別として。
＜乾
　それでいくともう少し丁寧に，したいかしたくないかというレベルと，現に今何かを始めているかという，その２つを聞いた方がいいと思う。
＜宗田
　だから聞けるところだけ聞いてくればいいかなとは思うが。
＜乾
　現に何かしているかという質問の方が大事かもしれない。
＜宗田
　改善したいかどうかというのは，
＜西嶋
　しかしこの地域のことが分かっていたらできるけど，わかっていないからできないというのもあるわけだ。だから満足しているか，していないかというのは，何がしたいか
＜乾
　いくつか選択肢を用意しないといけないと思う。「今のままでいいとは思っていない」とかね。言葉でいくつか選んでおいて，今のままでいいやと思う人は，将来ニーズというのは出ないと思う。そうか二種類あるのか。到達点としていいと思っているのは。聞き方が難しい。実は聞きたいのは今のままでいいと思っているか次を考えないといけないと思っているかといった辺りが本当は一番聞きたいのだ。
＜宗田
　そうだ。うまくいっているところで，将来，これをやりたいと思っているとことが一番理想的なところだ。うまくいっているけども特にやりたいことがないというのが，その次だ。だからうまくいっているかいないかと聞くと，このままでいいのか，どうにかしたいと思っているかという質問項目が次にあって，その次に何かし

たいと思っている中で，具体的にテーマが見えている人用の選択肢と，こういう問題だとかね，何かしたいと思っているけどどうしていいかわからないと思っている人用の，気持ちは焦っているけどまだ見えていないという人が答えられるようにしてあげなければならない。それで本当は聞きたいのは，その辺りなのだ。しなければならないと思っているのだが，どこから手をつけたらいいのかわからない，会員はそっぽ向いているは，誰も働いてくれないわといったところ。そういったところにこそ，白馬の騎士が現れる必要があるのだ。地域づくりとか区役所とかまちづくりコーディネーターさんとかが，颯爽とあわられることによって，次のステップが始まるという。ことになるから。

＜宗田

なかなかそうはいかないな。

＜乾

だけどそう思わないとやっていけない。

＜宗田

市政総合アンケートの結果などを見ていると，ＰＴＡとか町内会活動に参加している人が多いと出ていたが，地域ではお母さんグループのようなものもできていて，地域の窓口を務めてくれたいしているケースもある。３０代の女性が団結すると強いからね。

＜西嶋

もともとそれが女性会だったのだがな。

＜上村

砂川学区の冊子をつくるたたき台を作ったグループが家庭文庫もやっていて，そのメンバーが動いている。

＜宗田

逆に女性会というのはこれまでに経験したことのないくらい高齢化しているので。

＜上村

でも力は強い。

＜宗田

自分の母親よりも年齢が上の女性と地域の中で何かをやっていくというのは，難しいだろう。

＜乾

整理するとうまくいっているかどうかという自己評価と，ある種，今のままでいいと思っていると，なんとかしなければならないといったあたりを最初に拾っておいて，それに対してニーズとして具体的にやりたいことは，ここに書いてあるような話しで一定選択肢の中で拾えると。そしてもう一つそのなかで，なんかしなければならないとは思っているが，何をしたらいいのかわからないという，これはたぶん課題としてでてくることだが，運営側の課題，活動していく上での課題と，地域課題という後ろの方で拾える話とクロスすることになると思う。なんかしないと

いけないと思っているが，何をしていいかがわからないという。
＜西嶋
　今のままで言いと答える人が多いのではないか。
＜乾
　いや，結構いるのではないか。この間も相談を受けた。
＜安本
　７２学区あっても完璧なところはないだろうから，悩みはあると思う。
＜乾
　悩んでくれている方が嬉しいのだ。大きなストーリーとしてはそんな感じで拾っていくとして。それから組織課題というのも活動の課題の中に入っていたのか。参加者が少ないとか，誰も動いてくれないとか。そんな設問はどこかにあるのか。
＜事務局
　・・・・・
＜乾
　何かしたいと思ったときに，住民みんなが動くとは会長は思っていなくて，実際は周辺でやってくれるメンバーが３，４人いればましだとかね。もう少し若いやつがいてくれればといったことを拾える場所を入れていおいて欲しい。要するにさっきの話で，なんかしなければならないと思っている会長は，地域課題としてなんかおおきな話がある，組織の課題として人が動いてくれないとかそういった話がある，活動面でなんか停滞気味でなんかこんなことしないといけないとか。それを三極面で課題を拾ってくれたらわかりやすい。
＜西嶋
　それは７２学区ではないのではないか。
＜乾
　どうだろうか。７２学区も自ら手を挙げたわけではないから。少なくとも安心安全を行っているところは手ごまは一定あると思うのだが。
＜宗田
　それでも悩みはいろいろあると思う。手を挙げなかったところはなぜ挙げなかったのかという理由は，本当は知りたいところだが。
＜乾
　それは振り出しになる。
＜宗田
　確かに振り出しなのだが，そこを解決しない限り安心安全も解決しないのだが。
＜乾
　地域づくりで７２学区で実施しながら

　※以下，宗田先生を中心に，まちづくり推進課の苦労について雑談

＜乾
　今まで話してきたこととは別に，各区のまちづくり推進課の職員と話をする場というのはいると思っている。それは攻め立てるのではなく，抱え込んでいる重いとか。一方でこうなればいいなといった思いもあるだろうし。それは機会を見てぜひ実現して欲しいと思う。
＜事務局
　アンケート項目についても課長会のほうで聞いてみるつもりだ。その場で色々と意見は出てくるかと思うが。
＜西嶋
　そうだ。本日の会議を踏まえて訂正を加えたやつでね。
＜宗田
　目的のところなのだが，丁寧に説明すると時間が掛かると思うが，京都には本当に多様な学区があって，地域のまちづくりの関係は複雑なのだと。そのことを今まで京都市もわかったっていたのだが，ちゃんと調べたことがないので今回，市民参加の関係で調べることになった，という素朴な一点だと思う。
＜乾
　そうだろうな。ちゃんと知りたいということだ。
＜宗田
　中京の人はこれが当たり前だと思っていて全市的にそうだと思っているが，他の区では違う。また他の区も同様だ。
＜西嶋
　それと中京ならば１０学区くらだというものが，他の行政区も１０学区くらいになっていかなければならないわけだ。そうでないと全学区が，京都市が「こういうことをしたい」といった場合に足並みが揃わない。その揃わないところが一番問題なのだから，だから逆に言ったら，７２学区が良いお手本になって，それ以外の学区に出せるような。７２学区よりも他の学区に提言できるようなものになっていかなければならないことには，全然意味がないと思う。だから先ほどおっしゃられた「何かメリットがあるのか」といわれたら，７２学区以外のところに広げていくことだ必要だと。
＜宗田
　お手本にさせていただきたいので調査させてください，という形で。
＜乾
　だから７２学区に戻すというよりも，他の学区の参考になるように使いますからといったことで。
＜宗田
　私は乾先生が考えているように，京都市内の全学区の足並みが揃うことは無理だと思っている。多様な状態があって，その状況に合わせる３通りくらいのパターンがあって。

＜乾
当然そうだと思う。もっと区が力を付けてくれば，区ごとにここのレベルの議論ができてくる。それが次のステップだと思う。
＜宗田
地域によっても捉え方が違うだろうし，年代によっても違う。また男女の見方も違う。結局同じ理想の状態を角度を変えてみているのかもしれない。

＜西嶋
中京なんかは「あんたらええわな。小学校も中学校も高校も綺麗で」と言われるが，それが他のところにもそうなって欲しいという思うがあるわけで，そのためにそこの地域地域の人が，今後どのようにしていかなければならないか，ということを考えていかなければならない。行政にやってくれというだけでは駄目だと思う。自分たちも力を出して，町衆の力というものを出していかなければならないと駄目ではないかなと。それはやっぱり広めていかなければならないと思うし，それはこういったことを通じて伝えていくべきことだと思う。
＜乾
それはそうだ。基本的なベースは。
＜宗田
この間の基本計画点検委員会で公募委員の〇〇さんが来ていて，その話をした。「中京や下京は綺麗になっている。私たちも自分たちの順番が来るかと思って待っているが，その順番はきそうにない。モデル校を作って全国的に有名になっていくことは結構なことだが，自分の子どもたちが親になってからできてもしょうがないので，そこをどうするかという議論があった。そういうことをやっている人は，西嶋さんがおっしゃったような町衆の努力によって，〇〇小学校ができたとは思っていない。
＜乾
いずれ京都市の政策自体もバランスは中心区に寄っているから。
＜宗田
それが門川さんに言わせると違うのだ。モデル校はたくさんあるのだと。
＜乾
まあそういう形で。大変な状況は理解しながらもいずれはどこかで変えていかなければならないことだと，地域づくりの高畧さんも知ってるから，ここで踏ん張っていてくれるのだと思うし。中途半端だか。フォーラムでできるのはここまでかという中途半端さを感じながらも。
＜宗田
我々フォーラムはよそ者というところもあるから仕方がないかもしれないが，まちづくり推進課長さんに対して，まちセンなどの他の課が少し暖かく支援するような体制を作っていかないと，孤立無援で戦っている状況はお気の毒だと思う。

＜西嶋
　今度，まちづくり推進課長会がある中で，記名にするのかしないのかということは，逆にこちらサイドで決めさせてもらわないと，そこで尋ねてもらって結果が出たら，その方向でないと具合が悪いという風になってしまったら。
＜乾
　その辺りはお願いしておくしかないかと思う。
＜事務局
　記名をしてどのように使うのかという部分だと思う。何学区がどのような状況だと特定されてしまうような掲載のされ方をしてしまうと…。
＜乾
　そこははっきりさせておいて欲しい。冊子に載せるときもそのような使い方はしない。
＜事務局
　そうすると記名をする理屈というのがあるのかという気がする。
＜乾
　先ほども言ったように，どういう地域がどのような状況になっているのかということを客観的に見ながら検証するという作業はする。当然ね。ここの学区ではこういう地域だからこういう状況なのだなということはする。ただ冊子にするときに，「〇〇学区は～だ。」という載せ方はしない。こういう課題を持っているところはこういう状況にあるとか，こういうことを考えているところが多いとか，そういう書き方にしかしないので。直接的にどこそこの学区がという書き方はしない。ただ役に立つのは分かると思う。仮に７０数個の回答が揃っても，どこが書いたのかがわからなければほとんど何の役にも立たたない。
＜事務局
　アンケートの対象は安心安全ネットを実施している学区なのだから，ある程度，どのような学区なのかはわかっているが。
＜乾
　７２学区の中には中心区のものもあれば郊外にあるのもある。当然その課題が違っていて当たり前で，それを無視して会長だけの話を聞いても何にもわからない。ここの場で議論するときに，こんなヒントを出さなければならない，こういうサポートが必要なのではないか，という話をするにしても。
＜事務局
　そういうことは，〇〇学区というところから，ある悩みがあがってきたら，フォーラムとしてサポートするということか。
＜乾
　それは無理だろう。〇〇学区に入ってサポートするのは。
＜事務局
　サポートするというか〇〇学区の悩みに対して答えてあげるという部分も想定し

ているのか。
＜乾
　それは想定していない。フォーラムがそんなことはできないし，そんな力はないし，むしろ要望として地域づくりに〇〇学区はこのようなサポートを求めてますよというのは返せる。具体的に返すことは出来る。望むのならば。ただそれを返すことによって，「特定されては困る」というのであれば止めておくが，基本的にはフォーラムができることはそこまでだと思う。その部分については。具体的な悩みについてどうするかについては，ここの会長さんはやる気はあるのだが悩んでいるから誰か行って覗いて話を聞いてあげたらというような返し方はできる。
＜事務局
　アンケートの使い方をされるのかで学区が分かってしまうとなるとしんどくなる，といった意見は出てくると思う。ただわからないように７２の平均はこうですよと。平均という言い方はいいかどうかはわからないが，学区を特定しなくても構わないのではないかということになると思うが。ただし会長自身がそのように言うかどうかはわからないが。そのように説明してみて，「それならば答えない」と言われる可能性もある。
＜乾
　それは仕方がないと思う。
＜宗田
　まちづくり推進課長会で課長の意向を確認しておいて欲しい。そして結論は出さない。
＜事務局
　アンケートを出すときに，アンケートをすると，基本的には選択式にするというところまでは説明した。あとは記名式にするというところには話がいかなかったので。
＜宗田
　まちづくり推進課長会でも結論に至らなかったわけだ。
＜事務局
　次回の課長会で問いかけることはできると思う。
＜乾
　だから高畷さん自身が学区を特定する，もちろん冊子では特定しないが，ここの場で議論するときに学区が特定できなければ，あまり役に立たないだろうということを理解し，共有しておいてもらいたいというのはある。
＜事務局
　私自身，アンケートがどのように使われるのかが落ちていない。
＜乾
　ようするにこんな悩みを持っている，極端に言えば悩んでいる会長はいるのだということを確認できただけでも随分プラスになるわけだ。なんとかしなければなら

ないと思っているが，なんとかするためにはこの辺が不足しているという思いを持っている会長がいるということを確認できただけでも次のステップが提示できるわけではないか。
＜宗田
　私たちは研究者なので，まず実態を知って診察することが大事と思うのだが，行政の方が治療をしているので，どういう治療法が良いかが分からない限り診察をするなという考えなのだ。
＜乾
　それは鶏たまごだから。
＜事務局
　アンケートをどのように使われるのかが自分自身の中でわかっていないので。
＜乾
　どういうふうにという言葉だが。
＜事務局
　例えば７２学区の中で課題を聞いていって，７２学区の中で半分は高齢者に対する課題があったと。それが４０学区あったと。いうのであれば，記名でなくても良いと思う。取っていいか悪いかは別として。
＜乾
　最初の作業ではそれをするが，それだけで済ませたら，処方箋を考えるうえであまり意味がないではないか。逆に宗田先生の話を受けて言うならば，行政は処方箋がいるというのならば，処方箋はもう少し突っ込んだところを聞いておかないと見えてこないではないか。
＜宗田
　ただ今までその処方箋を誰も書いてないし，どう書くかもわからないわけだ。だから今の段階で，こういうパターンならばこういう処方箋が書けるというのを，僕らが見せればいいのだが，それを今からやろうというのだから。
＜西嶋
　それは市民参加推進条例の中の，市民の責務の部分で，我々は漠然とした部分を出してもらって，本当にそれを市民の責務という部分をやはり今の学区自体がどのような状況になっているのかということを分かって，本当の我々の市民として何をしないといけないのかという部分がここで見えてこないといけないのではないかと。当然，それだけではない，各行政区の立場というものも，改善しないといけないのかどうかわからないが，何か見えてくる部分もあるのではないかなと。それがこれからの議論の中で，出てくる問題であって，やはりフォーラム委員としてオフィシャルに委嘱を受けてやっている以上は，そういった議論をする材料として提供をしてもらいたいというのが私は一番だと思う。
＜宗田
　いずれにせよ記名する必要があるかどうかという一点に関して言うと，具体的に

見ていくために他の資料と照合する必要があるだろうということ自体をまだ知らないのははずだ。
＜事務局
　記名してもらわなくとも，各区は顔つなぎをしてアンケートを実施しているので，記名しているのと同じなのだ。そこがそんなに問題になるとは思っていないが，アンケートがどういう形で使われていくのかが自分の中では掴めていないということを言いたかったのだ。
＜乾
　正直に言ってそこについては僕らも１００％わかっていない。高畷さんは私が学区カルテという言葉を使ったから混乱しているのかもしてないが。
＜事務局
　私はそう思っていた。
＜乾
　でも今すぐにそんなものはできないではないか。２２７学区の中でしかも学区カルテというものも，何段階かランクがあって，最終的には「この学区はこのような手を打つべし」といった処方箋つきのものとか，診断をするというものだろうが，そんなのは随分先の話だ。やれるとしても。今のところでは処方の仕方とか，大体こういう症状があるというところを見る段階だ。だから正直に言って，いま課題を聞いたからと言って，その課題にこういう処方があるというようなアプローチの仕方はしないし，そういう返し方もしない。できない。でも今の段階でもざっと集めたときにやっぱり会長さんが書かれた話の中に客観データはほとんど含まれない。その学区の客観的な状況というものはどこにも含まれないから，実際に書かれた話とよそからわかる客観的なことを照らし合わせながら，あの学区ならば仕方がないかな，といった話をせざるを得ないと思う。
＜西嶋
　あの学区ならば仕方ないな，というものあるかもしれないが，あの行政区はこんな感じだとか，これは我々だけの話で話しに，行政区の中で異動があった場合に，中京の人が伏見にいかはったと，その中で中京と伏見の違い，あるではないか。それはフォーラムの中でも浮き彫りになってくる可能性はあるわけだ。
＜乾
　今の時点ではカルテを作って処方箋をひとつひとつ見るなんていうことはありえないし，しかも７２しか集まっていないのだから，そんなことやれるわけはない。ならば今のところは分析だ。分析しながらこれから先の可能性があるのかないのか，そういう地域が動く可能性があるのかないのかを知りたい。知ったうえでもし可能性があれば提言するなり，次のステップを考えていくということしか今はないと思う。最後に出て行くのは少し一般論された提言しかないはずだ。それを分析したり意見交換する段階では，なるべく具体的なデータもつき合わせてやりたいから，扱うだけだ。期待も心配もあるのかもしれないが，○学区の課題を誰かが行って解決

したり，といったことは今の時点ではあり得ないし，無理だし，するつもりもない。
＜事務局
　学区ごとに個人情報保護の観点が出てくるので，その点も注意しなければならない。
＜乾
　当然そうだ。最後の段階ではみんなで考えながら作っていなければならない。
＜宗田
　コミュニティバランスモデルなどもあったが，国勢調査の内容などもきっちり整理して情報統計課辺りが自治連の会長さんやなんかに返してあげてもいいのだが，本当はそれがカルテなのだ。でも実際には区役所から聞いてきたりしてきて苦労しながら自分で作っていたりしている。そこは行政の情報提供サービスとしてできることではある。その点については個人情報とは関係ない。京都市は学区を統計区として使っているのだから。今までそれを必要だと誰も言ってこなかったが，住民の声だけでカルテを作るというのは本当のカルテとは言えない。患者がどういう症状なのかというものあるが，それでカルテがなりたっているわけではなくて，年齢や身長などの客観的なデータを見て診断していくわけだ。まちづくりのしおりのような，みんなで共有しなければならないようなものを，きっちり作っていかなければならないと思う。